

1. 日 時 平成 29 年 12 月 20 日(水) 13:30～15:00

2. 開催場所 中央区役所 4 階大会議室

3. 議 題

(1) 平成 28 年度上半期中央区内地域包括支援センターの運営状況

① 各センターの月別報告書

② 地域包括支援センター連絡会等の実施状況

(2) 介護予防ケアマネジメント対象者が要介護状態となった
場合の取扱いについて

(3) 平成 29 年度第 1 回神戸市地域包括支援センター運営協議会の報告

① あんしんすこやかセンター運営評価について（結果）

(以下非公開)

(4) 地域包括ケア充実のための事業目標について

(5) 特定事業所へのサービス集中率について

4. 当日出された主な意見・質問と事務局回答（要旨）

・来所が多いセンターと電話が多いところとどのような違いがあるのだろうか。

→（事務局回答）

来所が多いセンターは住民にとって場所が近い、わかりやすいということがある。また、電話の相談が多いところはまずは電話で相談したいという住民の意向があると考える。

・認知症についての相談が 0 件、地域ケア会議についても開催 1 回に対し 17 回も打ち合わせをしているセンターもあるようだが。

→（事務局回答）

月報については区で精査し指導を徹底していきたい。地域ケア会議については、下半期に開催する予定のものも事前に打ち合わせや調整をしているので、上半期に計上されている。また、初めて会議を開催する地域もあり、打ち合わせの件数が多くなっていると思われる。

・高齢者あんしん登録事業とは何か、登録をしてどのような対応をしているのか。また、協力者は認知症サポーターが担っているのか。

→（事務局回答）

事業について説明。

登録者が行方不明になったときには警察と介護保険課に届出、捜索協力者に情報をメール配信し、本人発見につながる情報を収集している。協力者は民生委員や行政、あんしんすこやかセンターで登録をお願いしている。認知症サポーターの方々へは積極的に周知していない現状である。

・総合事業について、ケアプランのセルフ型の件数が少ないように思うが、簡易型などのサービスが整備されておらず、まだまだサービス利用につなげることができないためだろうか。総合事業の目玉となる部分かと思うが今後の見通しはいかがか。

→（事務局回答）

資料 7 参照。住民主体の訪問サービスについては実施団体が 4 団体、上半期の利用件数は 8 件と少なく、プラン数も少なくなっている。市で想定している数に届いていないことは課題であると考えている。

住民の中でそのような風潮に至っていないこともあり、実施団体が増えていかないのだと思うが、今後の見通しについてははっきりと示されていない。

・特定高齢者についての対応が全市的にB評価が多くなっている。どういうことが反映されているのか。総合事業の導入へも影響するのだろうか。

→（事務局回答）

特定高齢者については一般介護予防事業や介護予防教室などを積極的に案内し、要介護状態になることを早期に予防していくことが重要であるが、要支援者・要介護者への対応が優先度が高く、特定高齢者に早期にアプローチできていないセンターが多いということだと考える。総合事業の導入へも影響する可能性はあると思われるが、昨年度の評価であるので、今年度からそういった方を総合事業につなげることになっており、次回の評価に反映されるものと考えている。

・今後、あんしんすこやかセンターの時間外の相談を充実させていくという方針についてお聞きしたい。現状の勤務についても時間外も多く職員は疲弊していると思うが。

→（事務局回答）

第7期神戸市介護保険事業計画で示されているが、具体的には決まっていない。また一方、センター業務が膨大で負担が大きく、効率化していく必要があるとも認識している。

・センターは中学校区で担当しているが、実高齢者数のバランスはどのようなのだろうか。資料の中に統計も入れると比較検討できる。また、中学校区で担当していてよいのか、件数の差が大きすぎるのではないか。

→（事務局回答）

資料提供できるように検討したい。また圏域の高齢者数については、バランスを欠くところはあると聞いているが、中央区については一部の圏域を除き、概ね平均的な数になっている。

・不適の項目が全市的に見ても多いセンターがあるがなぜだろうか。

→（事務局回答）

職員の交代が多く、年度通して体制が整わなかったことが大きく影響している。マニュアルの管理や4職種がそろうなど基本的な項目で不適となっており、体制が整った今年度は改善されており評価も回復するものと考えている。